

日衛連NEWS

Japan
Hygiene Products
Industry Association

発行／(一社)日本衛生材料工業連合会

特集 第二回『中日衛生用品企業交流会』東京にて開催

2014年10月21日東京にて、日本衛生材料工業連合会と、中国造紙協会生活用紙專業委員會は、企業交流会を実施しました。2011年に続き2回目となる今回も、安全性に関する規格や環境問題などに関する情報交換が活発に行われました。『第二回中日衛生用品企業交流会』は、両国の持続的業界発展と連携を目指すための貴重な意見交換の場となりました。



※ 2回に分けて記念撮影

第二回『中日衛生用品企業交流会』概要

【コラム】CNHPIA 中国造紙協会について

- 日本衛生材料工業連合会 齊田喜道副会長挨拶
- 中国造紙協会生活用紙專業委員會 江曼霞秘書長挨拶
- EDANA マリアンヌ・ロスバーク氏挨拶

午前部

- 医薬品医療機器等法について 上嶋慎也氏
- 日本の生理用ナプキンの法規制について 近藤秀樹氏
- 日本の紙おむつの自主基準について 中尾直人氏

午後部

- 中国国家標準(国の規格:GB)の紹介 史記氏
- 中国の生理処理用品、紙おむつ市場の紹介 江曼霞氏
- 日本の生理処理用品、紙おむつ市場の紹介 藤田直哉氏
- 日本における使用後紙おむつの廃棄処理 熊谷善敏氏
- 中国における使用後紙おむつと生理処理用品の廃棄処理 江曼霞氏

質疑応答

交流会後に行われたレセプションパーティ

- レセプション挨拶 高原豪久氏
- レセプション挨拶 陳学忠氏



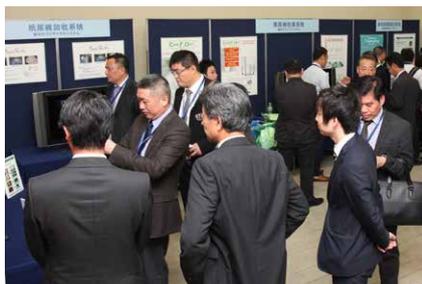
第二回『中日衛生用品企業交流会』概要

10月21日、東京大手町の経団連会館にて行われた『第2回中日衛生用品企業交流会』には、中国側から40社80名、日本側からは関連企業および団体72社の計132名が参加しました。冒頭、日衛連の斉田喜道副会長（全国紙製衛生材料工業会会長、花王株式会社執行役員）と、中国造紙協会生活用紙専門委員会の江曼霞秘書長、さらにはヨーロッパの不織布関連団体「EDANA」のマリアヌ・ロスバーク氏が挨拶。その後、日衛連常任理事の天田泰正氏、中国造紙協会生活用紙専門委員会副書記長の張玉蘭氏より、両国の主要参加者紹介が行われました。

今回の交流会は、懇親昼食会をはさんだ午前と午後の2部構成となっており、午前のプログラムでは日本側による「医薬品医療機器等法」「生理用ナプキンの法規制」「紙おむつの自主基準」についての講演と質疑応答を実施。午後のプログラムでは、日本側が「日本の紙おむつ・生理処理用品市場」「日本における使用済み紙おむつの廃棄処理の現状」について、中国側が「製紙製品の国家標準(GB)」「中国の紙おむつ・生理処理用品市場」「中国における使用済み紙おむつの廃棄処理の現状」について、それぞれ講演しました。

■ 展示コーナー

同会館の別室には展示コーナーを設置しました。「紙製工業会員コーナー」では、生理処理用品・乳幼児用紙おむつ・大人用紙おむつ3分野における会員企業のテレビCM映写や製品写真展示を実施。また「団体・環境コーナー」では、日本不織布協会、アジア不織布協会、吸水性樹脂工業会、中国造紙協会生活用紙専門委員会といった業界団体および環境関連の企業がパネル展示などを行いました。



※CNHPIA [中国造紙協会 生活用紙専門委員会: China National Household Paper Industry Association]

設立：1993年6月8日

会員：国内会員520社、海外会員27社

- 中国造紙協会(CPA)傘下の事業者(衛生紙製品、生理用品、紙おむつ、ウェットシート等の製品メーカーおよび関連設備と原料・補助原料のサプライヤー)から成る社会团体。
- 情報交換、業界発展のための意見調整や企業へのサービスを提供する役割を担う。
- 主な活動内容としては、年1回の定例会、シンポジウム等を開催する他、海外の国際展示会への参加調整なども行う。

■ 日本衛生材料工業連合会 齊田喜道副会長挨拶



齊田副会長は、日衛連を代表して『第2回日中衛生企業交流会』開催に向けて尽力した関係者に深い感謝の意を表した後、交流会議や懇親会を通じ、両国のレベルアップに通じる気付きや知見を各自が得ることで、消費者の幸せにつながる製品を増やしていくことを呼びかけました。また、両国の製品レベルは、消費者の高いニーズに対応してきた結果、世界最高のレベルに到達していると考えられること。特に中国各企業の技術進歩や設備新設はめざましく、自ら中国を訪れた際に感じた旺盛な消費者需要、商品の豊富さには驚くばかりであったことなどを話された上で、健康を維持したい気持ちや親を敬う気持ち、子を持つ母の心などに対し、安全な製品を提供する義務があると述べられました。

■ 中国造紙協会生活用紙専門委員会 江曼霞秘書長挨拶

挨拶冒頭で、中国造紙協会生活用紙専門委員会と交流会に出席する中国各企業を代表して開催への謝辞を述べられました。また、衛生用品の消費習慣や消費者ニーズに共通点の多い日本における紙おむつ、生理処理用品産業および成熟した市場には、中国が参考にすべき点が多々あること。さらに衛生用品市場が急成長を見せる中国において、日本企業が事業を伸ばすためには中国企業との協力体制が不可欠であるとした上で、良好なWin-Win関係を構築し、中日両国の衛生用品企業間の交流を深め、消費者のため、さらに快適でコストパフォーマンスのよい製品を提供していこうと呼びかけました。



■ EDANA マリアンヌ・ロスバーク氏挨拶



ヨーロッパにおける不織布産業団体であるEDANAを代表して同交流会に出席されたマリアンヌ・ロスバーク氏。衛生用品企業の持続可能な発展のためには、サプライチェーンに関わる全員が安全・品質・環境についての問題を真摯に受け止めることが大切であるとした上で、関連機関が互いに協力しあいながら、知識や経験を交換していくことが重要であると述べられました。

第二回『中日衛生用品企業交流会』午前の部プログラム



■ 医薬品医療機器等法について

上嶋慎也氏

厚生労働省医薬食品局審査管理課

厚生労働省医薬食品局上嶋氏の講演では、まず2013年11月に改正された薬事法について、その概要が説明されました。特に改正の背景となった再生医療については、関連する製品例や安全対策等の整備について紹介。医薬品、医療機器とは別に「再生医療等製品」を新たに定義した内容になっていることを説明しました。また、生理処理用品が含まれる医薬部外品の申請や承認審査について、詳しい紹介がなされました。

■ 日本の生理用ナプキンの法規制について

近藤秀樹氏

ユニ・チャーム株式会社／

全国紙製衛生材料工業会生理処理用品部会委員

生理用ナプキンの法規制として、製造販売承認の取得方法について説明されました。製品そのものと、製造販売業者それぞれに承認と許可が必要なことや、承認基準の範囲内の材料を使用することで承認までの時間を大幅に短縮できることなどを紹介。また、工業会によるナプキンとタンポンの自主基準についても表示基準を中心に詳しく解説されました。



■ 日本の紙おむつの自主基準について

中尾直人氏

大王製紙株式会社／全国紙製衛生材料工業会／日衛連理事

日本において紙おむつは雑貨扱いであるため、一般法規制以外に規制する規格基準はありません。そこで日衛連にて国が薬事法にて規制する生理処理用品と同等の自主基準を制定していることを説明。材料の安全性や衛生性を確保するための基準や、表示に関するガイドラインについて紹介したほか、2013年に新たに定めた衛生用品の「抗菌自主基準」についても解説されました。



第二回『中日衛生用品企業交流会』午後の部プログラム

■ 中国国家標準 (国の規格:GB) の紹介

史記氏

中国パルプ・製紙研究院 国家紙類品質監督検査センター
全国製紙工業標準化技術委員会

中国の国家規格であるGBは国家標準化委員会が計画を策定し、改訂を含む制定作業のほか、審査・承認ナンバリング・公表を行っているもので、日本のJISに相当します。講演では、強制規格であるGBのほか、推奨規格となるGB/T、該当するGBが存在しない場合に使用する産業基準、さらには地方基準、企業規準など、中国における規格に関する標準体系について詳しく紹介されました。



■ 中国の生理処理用品、紙おむつ市場の紹介

江曼霞氏

中国造紙協会生活用紙專業委員会秘書長

中国における衛生用品 (生理処理用品、乳幼児用紙おむつ、大人用紙おむつ) 市場については、2013年の販売総額594.5億元であり、成長率で前年比12.7%増と伸び続けています。その内訳は生理処理用品が前年比13.5%増の324億元、乳幼児用紙おむつが前年比9.3%増の240.4億元、大人用紙おむつが前年比36.2%増の30.1億元。市場がスタートしたばかりの大人用紙おむつの成長率が特に高い結果に。また2013年の市場浸透率は生理処理用品が91.1%、乳幼児用紙おむつが47%となっています。

生理処理用品、乳幼児用紙おむつは共に高級品への需要が増加。薄くて軽く表面材をよりソフトにした肌触りのよいものに人気が集まっている。一方、大人用紙おむつは基本的な機能が備わっていればよいとの考え



方が主流で価格に対して敏感だといえます。

中国における衛生用品の浸透率は先進国に比べるといまだ格差があります。今後の経済成長と生活レベルの向上が必ずや消費の増加に結びつくとの見方がなされています。特に大人用紙おむつについては、高齢者人口最多の国として地域医療の発展が新たなビジネスチャンスをもたらすであろうと解説されました。

■ 日本の生理処理用品、紙おむつ市場の紹介

藤田直哉氏

日本衛生材料工業連合会 専務理事

紙おむつの2013年市場規模は乳幼児用が1,720億円で売上数量は107.2億枚。大人用は1,280億円で売上数量64.9億枚となっています。成長率はほぼ横ばいとなっていました。ここ2～3年、2桁の伸びを見せています。その要因としては中国市場へ並行輸入されていると推測されますが、日本メーカーはそれを歓迎していないとの説明がありました。

タイプ別売上数量を見ると、乳幼児用紙おむつでテープ型の構成比48%、パンツ型52%とほぼ同比率。一方、大人用紙おむつでは、尿取りパッド51.6%、軽失禁パッド／軽失禁ライナー24.6%、パンツタイプ20.7%、フラット型



3.1%となっており、日本では、パンツタイプとパッドタイプとの組み合わせ使用がされている。また、近年軽失禁タイプが増加していると説明。

■ 日本における使用後紙おむつの廃棄処理

熊谷善敏氏

プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン株式会社
日本衛生材料工業連合会環境委員会副委員長

使用済み紙おむつの収集にあたっては自主基準として表示に関するガイドラインを制定。使用後の処理について、「紙おむつに付着した大便はトイレに始末すること」「汚れた部分を内側にして丸め、不衛生にならないよう処理すること」「トイレに紙おむつを捨てないで、住まいの地域のルールに従って捨てること」「外出時に使った紙おむつを持ち帰ること」を統一絵表示によりパッケージに記載するというルールについて紹介しました。また、容器包装リ



サイクル法に基づく工業会の取り組みと成果についての報告もなされました。

■ 中国における使用後紙おむつと生理処理用品の廃棄処理

江曼霞氏

中国造紙協会生活用紙専門委員会秘書長

現在中国では、使用後紙おむつおよび生理処理用品は生活ゴミの一部として処理されています。その量は150万～180万トンと見込まれ、生活ゴミの約1%を占めています。主な処分方法は埋め立てと焼却。堆肥化などの生物処理やリサイクルも技術的には可能だが、異なった素

材を分別しなければならないため、実際には困難であるのが現状。今後は廃棄物の量を減らすため、製品の軽量化を図るとともに可能な限り生分解性の原材料を用いることでゴミの無害化処理の推進を図っているとの報告がありました。

第二回『中日衛生用品企業交流会』質疑応答

午前部の部、午後の部、それぞれの終わりには質疑応答の時間が設けられ、両国の参加者から品質や安全性に関する多くの質問が寄せられました。特に中国からは日本での品質規定の内容や消費者のニーズに関する質問や疑

問が数多く寄せられており、日本市場への感心の高さが伺えました。また、日本の参加者からも市場成長の方向性や販売チャネルについての質問が上がっていました。ここでは当日、上がった質問の一部をご紹介します。



参加者からは、
こんな質問が上がりました

■ 日本から中国への質問

- Q. 日本ではパッド型の大人用紙おむつについて重ね使いが一般的だが、中国ではそうした独自の使い方のようなものがあるのか？
- Q. 大人用紙おむつの販売ルートやチャネル別動向は？
- Q. 紙おむつやナプキンなどの廃棄について、原材料に生分解性の素材を取り入れていくという動きはあるか？

■ 中国から日本への質問

- Q. 生理処理用品はなぜ医薬部外品に指定されているのか？
- Q. 乳幼児用紙おむつについて蛍光剤使用に関する規定はあるのか？
- Q. 紙おむつについて日本で重視されている通気性には、基準値のようなものがあるのか？
- Q. 生理処理用品の安全認証における表面材の材料は、どの資料を見ればわかるのか？
- Q. 日本において医薬部外品や化粧品などの区分は、どのような基準で決められているのか？
- Q. 少子化がすすむ日本において、乳幼児用紙おむつの市場規模が横ばいを維持しているのはなぜか？

レセプションパーティ

会議終了後は、別フロアに会場を移してのレセプションパーティが開かれました。日衛連会長の高原豪久氏（ユニ・チャーム株式会社代表取締役社長執行役員）と中

国造紙協会理事長の陳学忠氏の挨拶からはじまったパーティは中締めとなった20時近くまで多くの参加者による活発な交流が続けられました。

■ レセプション挨拶



高原豪久氏

ユニ・チャーム株式会社
代表取締役社長執行役員／
日本衛生材料工業連合会会長

ここ数年、日本の衛生用品企業の環境は大きく変化しつつあります。団塊の世代と呼ばれる第一次ベビーブーム時代の世代が来年には65歳となり、わが国は文字通り世界でも例を見ない超高齢社会になります。統計によると日本女性の平均寿命は86.41歳、男性は79.94歳。その一方で、健康寿命は女性74.21歳、男性71.19歳であり、介護や医療を必要とする期間は延びています。また中国においても65歳以上の高齢者が多く、2013年の統計では日本の総人口に相当する約1億3,000万人であると同っています。高齢化という同じ課題を持つ中国と日本において、両国の衛生用品企業には無限のビジネスチャンスが存在することは明白です。同時に本日ご臨席の企業は健康長寿社会の実現をめざし、互いの国益に貢献できる共存共生の関係を構築すべき間柄であると確認しています。



陳学忠氏

中国造紙協会理事長

乳幼児用および大人用紙おむつの市場浸透率、両親のどちらかが一人っ子であれば二人目の出産ができるという政策、高齢化の進行などの現状から、中国の衛生用品産業はさらに大きな潜在力があると考えられています。日本の衛生用品産業は先進的生産設備と技術、優れた管理レベル・品質を有し、両国の企業間にはすでに密接な協力関係、技術交流、ビジネスが育っています。中国造紙協会生活用紙専門委員会と日本衛生材料工業連合会が共に創り上げた交流と協力の枠組みは両国企業間のビジネスに大いに役立つものであり、今回の交流会も双方の企業が互いに学び合い前進するための絶好の機会です。この交流が有益な協力をさらに推し進め、中日衛生用品分野におけるWin-Win関係の発展に積極的な役割を果たすことに期待しています。

レセプションギャラリー

